



カイントンのベストドレッサー賞は  
なかなかの盛況



## ウェリビー競馬場でのレースシーン

# 世界旅打ち気分

## ●第43回・ウェリビーとカイントン

須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/> の  
#グリーンファーム会報#2022年3月号  
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

バーニグス(ホームセンター)があれ  
ば立派な街というのが私の定義だ  
が、ウェリビーにはすべて揃つてい  
る。車でちょうどいいところにある  
ショッピングモールには100円シ  
ョップのダイソーが入っている。(た  
だしお値段は100円ではなく3  
豪ドル)、飲食店や食材店などに  
も困らない。またここをベースに長  
期滞在してもよいかなど考えてい  
る。

続いてもうひとつ競馬場、カ  
イントン競馬場を紹介しよう。  
カイントンはメルボルンから北北  
西に車で1時間強といふところ。  
典型的なカントリー競馬場といふ  
感じだが、メルボルンから近いこと  
もあって、ヴィクトリア州全体では  
カントリーの中のやや格上」という  
感じかもしれない。

このカイントン競馬場は例年、  
メルボルンカップの翌日に開催が  
ある。しかも年間最大のレース、カ  
ントンカップが行われる。私が  
行ったのも先述した遠征=カレン  
ミロニックのメルボルンカップ翌  
日。レースが終わってほとしたら  
ころで旅打ち気分に切り替えて助  
手とふたりで開催の様子を見に行  
った次第だ。

おなじく普段の開催はそこまで入場者も多くはないはずだが、カツブティーというのはどこに競馬場でも盛り上がるし、競馬ファンでない人も含めて地元民がやってくる。カイントンのカップティーもかなりにぎわっており、小さいスタンドとコース沿いの芝生は人でいっぱいだった。フードトラックも何台か出て、まさにお祭りである。

ファシションオンラインザフィールドという、ベストドレッサー賞のようなコンテストも行われていた。メリボルンカップ当日のフレミントンなど大競馬場でも行われるが、カントリーでもこういう企画ができるのは人口の多い地区だからだらうか。市内のデパートがスポンサーに付いており、参加者の数もけつこう多い。SA州のストラサルビンではファッシュジョンズオンザフィールドの男性参加者が集まらなくて苦労していたという話を以前書いたかと思うが、こちらはそれなりの選手層だった。

とはいえるまでカントリーなので、一般客はジーンズにトレンナーとか、そんな恰好で来ている人が多い。張り切っているベストドレッサー賞参加者とのコントラ

実は「」のカイントン開催にカレングラズジヨーを出走させる案もあつた。フレミントンのリストラッシュが当初補欠2番手だったので、念のためカイントンの一般戦にも投票していた。調教を手伝ってくれていた川上紘介騎手(いまは引退して現地で共有馬主の会社なども始めている)でエントリーし、個人的には少しありに使つてみたかったのだが、フレミントンの出走枠に入つてしまつた。カイントンだと斤量63キロなので馬主に言いづらいといふこともあつた。カイントンで使えれば、一人曳きの片方をやつて厩務員気分も味わえたのだが、こちらは貴重なチャンスをモノにできなかつた。



検疫厩舎でのカレンミロティック(右)とカレングラスジョー

遠征馬や輸入馬が検疫を受ける場所としても知られている。筆者は2016年に、豪州遠征したカレーニミティック・カレングラスジョーに帯同してこのウエリビーで「検疫暮らし」を経験した。といつても人間はずっと検疫厩舎にいるわけではない。泊まりは街中のホテルである。

ただ、検疫厩舎への出入りは手間がかかる。中に入れたものは外に持ち出せないので服もいちいち着替えるなるし、中から外に出るときは3分間シャワーを浴びないとロックが解除されない。朝作業、午後作業、夜飼いと1日3回出入りする、つまり3回シャワーを浴びるのでホテルの風呂は全く使わな

いっぽうではないので、「ぐるのんびり」した開催だった。このコースはおにぎり型というか、横長の三角形のような独特の形状なので、適性のある馬・ない馬が分かれそうな印象だった。

スタンドは「く」く小さいものだが、中はリノベーションされていてきれい。年間メンバーチケットはあるのだが、「入れないドリア」というのはほとんどなく、ビジターで行つてもストレスはない。

スタンドはもうひとつ、現在使われていない旧スタンドがあり、1階だけは業務用に使われている。その旧スタンドの前からアントリエにかけて独特な形のパドックが設定されているのだが、その風景

鞍上は、当時オーストラリア修業中だった富田暁騎手。我々の馬を先に頼んであつたのだが、富田騎手で前走2着だった馬が直前になつて同じレースにエントリーすることになった。我々の先約がなかつたらその馬で勝てたかも知れないのに、申し訳ない」とになつてしまつた……。

前回に続いてオーストラリアに  
なるが、容赦いただきたい。正直  
「在庫」がだいぶ尽きており、  
行つた場数の多いオーストラリア  
の競馬場を動員しまくらなくては

い。そして、皮膚という皮膚が乾燥していく。

はいかにもカントリー競馬といふ感じでシブい。メルボルンにはメトロの競馬場がいくつもあるが、観光客がいちばん手軽にカントリー競馬を経験できるのがこのウエリビ